

中央区内景気動向調査

令和6年2月調査結果

令和6年3月28日

中央区

総 括

令和6年2月の動き

中央区内における2月の現状判断D Iは合計で58.5と、前回調査から3.6ポイント上昇している。景気の先行き判断D Iは合計で54.3と、前回調査から2.2ポイント低下している。

図表 景気の現状判断D I、先行き判断D I（合計）

(D I)	令和5年	令和6年		前回調査
合計	10月	12月	2月	からの変化
現状判断D I	63.8	54.9	58.5	(3.6)
先行き判断D I	59.0	56.5	54.3	(-2.2)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、令和6年2月調査の調査票発送は2月7日（水）、回答期限は2月16日（金）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は47名、有効回答率は94.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

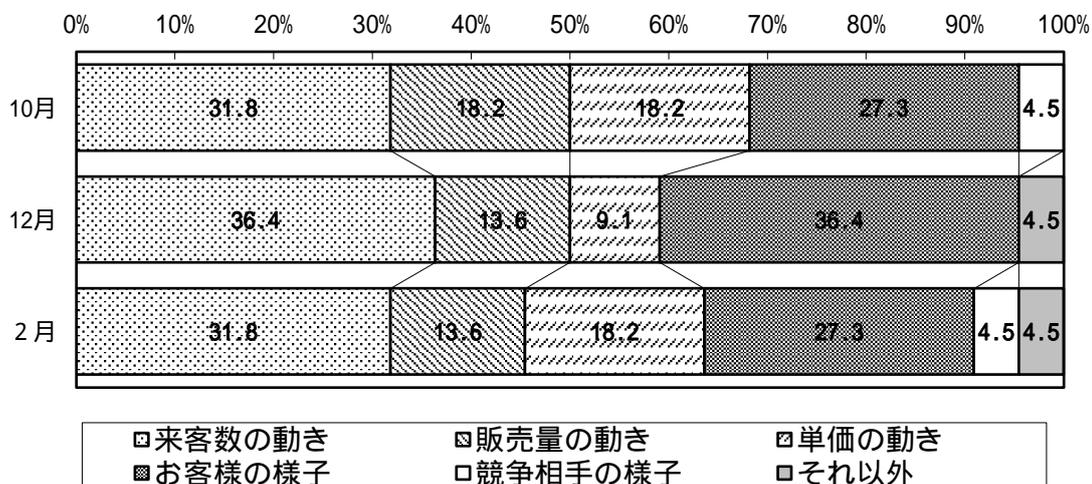
(D I)	令和5年	令和6年	
	10月	12月	2月
合計	60.1	56.0	53.7
家計動向関連	71.6	63.6	63.6
小売関連	68.8	60.4	64.6
飲食関連	-	-	-
サービス関連	75.0	62.5	62.5
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	50.0	49.0	45.0
製造業	50.0	40.0	25.0
非製造業	50.0	51.3	50.0

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

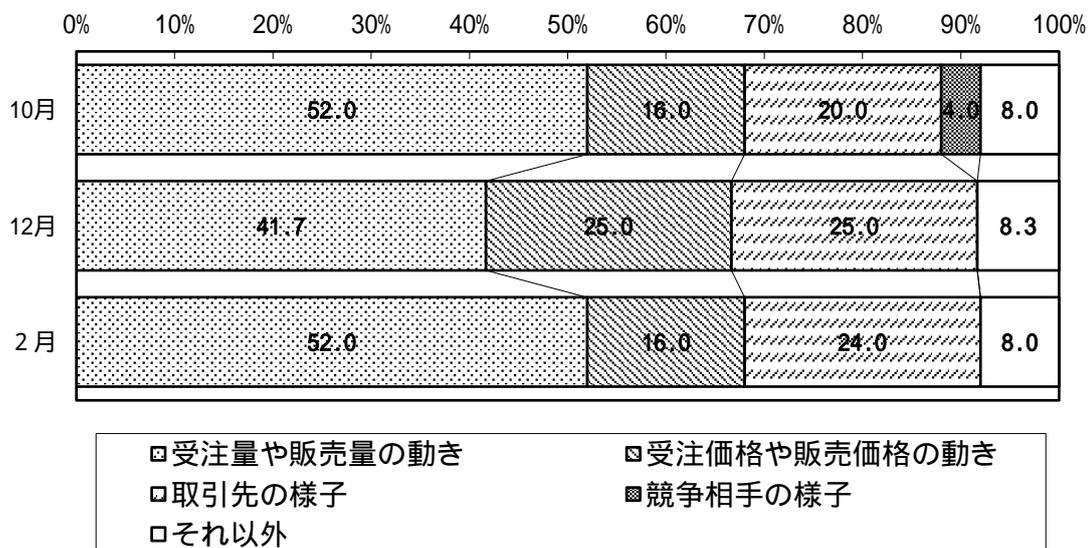
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	一般小売店〔文具〕(販売担当)	来客数の動き	・インバウンドの増加が今後も見込める。単価も上がっている。
		都市型ホテル(経営者)	単価の動き	・2023年の後半以降は客足が順調に伸び、客単価も上がってきている。
	やや良くなっている	高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・主な客筋は会社関係での接待だが、最近は外国人観光客も増加している。景気の面では期待できないと感じているが、営業成績は全体的に上昇傾向にある。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・インバウンドが増加している。決して新型コロナウイルス感染症が収まったわけではないが、意識が少しずつ薄らいできている。
	変わらない	通信会社(営業担当)	お客様の様子	・年度末に向けた契約等の調整のなかで、契約数、金額に関して客から前向きな意見をもらっている。
		一般小売店〔事務用品〕(営業担当)	販売量の動き	・増えている分野もあれば減っている分野もある。例年の年度末の動きとしては鈍い。
		百貨店(総務担当)	お客様の様子	・円安を背景に、インバウンドが加速している。また、値上げ等はあるものの、国内客の買上動向も堅調である。
		百貨店(広報担当)	お客様の様子	・富裕層やインバウンドの購買意欲は衰えていない。一方で、この数か月で劇的な上昇もない。年末商戦は盛り上がったが、その勢いが常にあるわけではない。とはいえ、国内客の売上は新型コロナウイルス感染症発生前を超える基調は崩れていない。
		百貨店(総務担当)	来客数の動き	・前年比10%以上の増加を続けてきた来客数は、1月に入りやや鈍化したものの、新型コロナウイルス感染症発生前の9割程度に回復している。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・インバウンドは前年比で160%と伸びているが、国内客はやや減少傾向となっている。インバウンドが同250~300%と大幅に伸びていた3か月前と比べると落ち着いた感じがする。
		乗用車販売店(店長)	来客数の動き	・メンテナンスは必要なので、来客数はふだんと変わらないが、新車の販売に関連する来店は減少している。
		高級レストラン(副店長)	単価の動き	・例年2月は比較的落ち着いたが、来月の宴会予約なども増えてきている。来店客の単価は変わっていない。
		一般レストラン(経営者)	お客様の様子	・従来どおり週末はそれなりに忙しいが、平日が相変わらず良くない。
		理容室(経営者)	お客様の様子	・高齢客の動きが鈍くなってきているが、若者には変化がないようである。
やや悪くなっている	一般小売店〔和菓子〕(経営者)	それ以外	・周辺店舗で閉店が増えている。	
悪くなっている	-	-	-	
企業 動向 関連	良くなっている	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・半導体の値上がりに伴って商品価格がかなり上がったにもかかわらず、販売量が増加しているため、値引きしなくても売れるようになってきている。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・3か月前と比較して20%近く売上が増加していることと、予算に対して売上回ることができている。
	やや良くなっている	新聞業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・ここにきて秋口の見通しよりもやや良くなっているが、前年比では依然として回復には至っていない。
		建設業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・仕事量が多いが、技術者が不足しており仕事を断ることがある。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・仕事量がかなり増えてきている。
不動産業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・オフィスの集約ニーズや拡張・増床ニーズが旺盛であり、区内のオフィス空室率については、大手仲介会社の発表では前月比0.38%の低下となっている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	取引先の様子	・即受注という案件が思ったより多い。
	変わらない	出版業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ウェブ案件はインターネット広告が順調だが、本来の紙媒体は相変わらず低迷しており、全体としては上向きになっていない。
		印刷業・製本業（営業担当）	それ以外	・製造業は、原材料の高騰で価格を上げなくてはならない状況下、受注先に値上げを打診すると相見積りで仕事がなくなってしまうという恐怖から、値上げできないという二重苦、三重苦の状況に陥ってしまっている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年同月に比べ、受注量等の動きに変化がない。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・年度末に向けて予算を使い切るため、駆け込みでの発注を受けることが増えている。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・特別に売上が伸びる様子がない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・3か月前から現在に至るまで、来客数にはさほど変化がない。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・問合せ件数や受注量等に大きな増減はみられない。
	やや悪くなっている	出版業（経営者）	それ以外	・物価高騰を受けて、安い店でまとめ買いをする消費者が増えつつある。
		印刷業・製本業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中国向けの売上が減少している。
	悪くなっている	卸売業〔繊維・衣服等〕（経営者）	取引先の様子	・コロナ禍後、何事も下向き傾向が強く、購買力が上向かない。

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般レストラン(経営者)	・アジア圏では春節を迎え、2月は天移動があると思うので期待したい。
	やや良くなる	一般小売店[事務用品](営業担当)	・年度末に向けて仕事量が増加している。3~4月は堅調である。
		一般小売店[文具](販売担当)	・インバウンドの増加に加え、国内客の単価も上昇している。
		百貨店(総務担当)	・春先にかけて、訪日観光客がますます増えていくことが予想される。多少の為替変動では動じない訪日ニーズが期待できる。
		スーパー(店長)	・インバウンド需要が続く。
		高級レストラン(副店長)	・先の予約数を見ても、今月よりかなり忙しくなる。
		都市型ホテル(経営者)	・経済は良いのだが、地震その他の災害がいつ起きるか予測がつかない。また、政治も不安定である。
		都市型ホテル(営業担当)	・春休み、ゴールデンウィークに向けて人流が活発になる。
		旅行代理店(店長)	・海外旅行の回復により申込みの増加が見込まれる。
		通信会社(営業担当)	・契約数、金額に関して客から前向きな意見をもらっていることもあり、株価上昇等の景況から、短期的には上向き傾向が続くとみている。
	理容室(経営者)	・インバウンドがいまだに増えている。	
	変わらない	一般小売店[食品](店長)	・せっかく売上が好調になったとはいえ、材料等の値上がり止まらないため、利益率が上がらないのが現状である。
		百貨店(広報担当)	・国内消費が大きく伸びる要素はないが、今後大きく下振れる材料もない。インバウンド需要は段階的に緩やかに伸びていくと予想している。
		百貨店(総務担当)	・賃上げの状況はまだ不透明なものの、依然として物価上昇が続いており、消費への影響は見通しが立てにくい。しばらくは足踏みが続くのではないかと。
		コンビニ(店長)	・外出機会が増えたため消費の方向性が変わったようで、コンビニでの購入は単価、点数共に厳しいものがある。
		衣料品専門店(店長)	・原価高騰による商品価格高騰の影響で、現状維持が精一杯である。
		乗用車販売店(店長)	・特に大きな変化はない。
		高級レストラン(経営者)	・当面は現状維持で推移する。
		一般レストラン(経営者)	・正直なところ、修学旅行、観光客がどのくらい来てくれるか分からない。
競馬場(職員)	・物価の上昇が止まる感じがしない。		
やや悪くなる	一般小売店[和菓子](経営者)	・原材料の値上がりが止まらないが、これ以上商品価格に上乗せすることは難しい。	
悪くなる	-	-	
企業 動向 関連	良くなる	通信業(営業担当)	・身の回りの状況を見ても、動きが出てきたように見受けられる。あらゆる分野で活動が活性化しているように感じる。
	やや良くなる	その他サービス業[ビルメンテナンス](営業担当)	・経済の動きも通常以上に戻りつつある。年度末でもあり、駆け込みの臨時案件が多く見込める。
		建設業(営業担当)	・仕事量の増加が見込まれる。
		建設業(経営者)	・仕事は増えてきているが、人手が足りず、受注を控えなければいけない状態である。
	変わらない	不動産業(企画担当)	・新築、中古共にマンション販売は好調であり、価格も上昇傾向が継続している。商業店舗区画への問合せも増えている。
		出版業(営業担当)	・インバウンドが好調であり、円安も続くと思われるため、業種によっては良くなるが、当社には恩恵がなく、円安による各種値上げにより低迷が続く。
		印刷業・製本業(営業担当)	・年度末で一時的に仕事が動くものの、その後の仕事が見えないのが実情である。
輸送業(従業員)		・販売量の動きに変化がない。	
通信業(営業担当)	・自社においてキャンペーンが終わることで、多少発注が停滞する可能性がある。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業〔証券〕（営業担当）	・企業業績を見ると、大手自動車メーカー等のように円安の影響がプラスに作用した企業については良好な数字がみられるが、それ以外は原料価格並びに賃金上昇等により低空飛行が続いている。消費財を始め諸物価の上昇傾向は継続しており、また春闘の要求水準等を見る限り、しばらくは大きな変化は予見しにくい。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経理担当）	・特別悪くなったり良くなったりする要因が見当たらない。
		卸売業〔飲食品（鮮魚）〕（経営者）	・インパウンドが頭打ちになってきている。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・取引先の話では、先行きは現状と変化はなさそうである。
		卸売業〔機械器具〕（支社長）	・エスカレーションが高止まりし、利益率に回復の兆しがみられない。
		経営コンサルタント	・株価が上がっても、賃金は上がらないまま物価が上がっているため、現状維持ではないか。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（管理担当）	・受注量増加の動きがない。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・近い将来増減が見込める要素は特にないが、増加を期待したい。
	やや悪くなる	新聞業（営業担当）	・取引先の業種によっては回復の兆しも見えるが、限定的な動きであるため、当面はダウントレンドが続く見通しである。
		出版業（経営者）	・物価高騰のあおりを日々感じている消費者が多いため、今後も安い店でまとめ買いをする消費者が増える。
印刷業・製本業（経営者） 建設業（経営者）		・海外の景気が悪化しているため、国内製造業もその余波を受けて悪化傾向になる。 ・労働力不足に伴う受注調整により、売上の減少につながっていく。	
悪くなる	建設業（営業担当）	・受注が伸びていない。	
	卸売業〔繊維・衣服等〕（経営者）	・物価上昇に賃上げが追い付かず、消費者が自己防衛に走る。	
	卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・年度末を超えて新年度になると、受注量がかなり落ちる。	

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	15
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	1
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	1
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	6
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	1
	通信会社社員	1
	レジャー施設関連	1
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	0
	その他サービス	1
	美容室経営者・従業員	1
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0